

周波数ひっ迫対策技術試験事務・平成30年度終了評価

案件名	実施期間	評価会での主なコメント	評価点
次世代の航空機着陸誘導システム(GBAS)の導入のための技術的条件に関する調査検討	H28-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・策定が急がれるGBAS に関する技術基準策定のベースとなる成果や技術基準のひな型が提案されており、成果目標は十分に達成されていると考える。 ・技術基準への反映について平成30年2月から審議が開始されており、成果が得られている。 ・次世代の航空機着陸誘導システム(GBAS)の導入に向け、総合的に有益であったと判断できる。 	4.1
無線LANのDFSにおける周波数有効利用の技術的条件に関する調査検討	H28-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・本技術試験の結果に基づいて、技術的条件が検討されており、十分、成果目標が達成されている。 ・本検討の重要性と緊急性は十分に理解できる。しかしながら、技術基準策定に資するのが技術試験事務の目的であるなら、取得したデータをどのようにまとめて反映するのかの考察が求められる。 ・5GHz 帯無線LAN システムにおいて、DFS(Dynamic Frequency Selection)試験を実施し閾値が余裕を持って設定されていること、市販の無線LAN システムがMP レーダーに干渉を与える可能性が小さいことを確認しており、周波数ひっ迫対策のための技術試験事務として有益だったと判断する。 	3.8
公共分野におけるブロードバンドシステムの利用拡大のための技術的条件に関する調査検討	H26-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・短期間に多くの項目を検討し、項目毎にきちんとまとめがなされていることから、十分に目標を達成していると判断される。 ・海上で通信システムを最も必要とする状況は悪天候や波浪警報が出ているときではないかと考えられるが、そのような状況における伝搬特性の検証が欠けている。 ・海上伝搬に関する机上検討、屋内実験、屋外実証実験と段階をえている点は理解できるが、伝搬試験を行う前に、机上で想定される伝搬条件から使用する無線方式を仮定し、その無線方法で、実現できるかどうかの評価をする必要があるがこの点が明確でない。 	3.6
移動型の携帯電話用災害対策無線通信システムに関する検討	H27-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・様々な問題点を考慮しながら丁寧に検討されており、成果目標は十分に達成していると評価できる。 ・新システムの技術条件だけでなく制度運用面の課題も整理され、今後の技術基準策定や法改正についても言及されていることから、成果は大きいと評価できる。 ・本システムの適用領域の明確化を今後行うことが望ましい。 	3.9
12GHz帯BS・CSデジタル放送の周波数有効利用のための技術的条件に関する調査検討	H28-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・BS 右旋の帯域再編及び左旋偏波と右旋偏波の共用のために、具体的な周波数割り当てを検討、検証を行って現行の技術基準の範囲内での再編が可能であるとの結論を得ており、周波数ひっ迫対策のための技術試験事務として有益だったと判断する。 ・技術基準が現行規定と共用可能なことを示し、民間基準の改定提案を行うなど、大いに評価できる。 ・決定事項を計画的に検証しており、結果は有益である。 	4.1
23GHz帯無線伝送システムの双方向化等に関する技術的条件の調査検討	H28-H29	<ul style="list-style-type: none"> ・ケーブル事業者が利用する23GHz 帯無線伝送システムの偏波多重・双方向化に関する技術的条件について検討され、十分、成果目標が達成されている。 ・技術基準のベースとなる技術項目と数値が良く整理されており、十分な成果が得られていると評価できる。 ・当初の目標に沿って、技術課題を明確化し、フィールド試験により実証を行っている。試験結果により、技術基準の見直し検討に入っており、実施結果は妥当である。 	4.1
映像符号化方式等を活用した周波数有効利用に資する技術的検討	H29	<ul style="list-style-type: none"> ・4K・8K 放送の普及に向けて、高効率な符号化技術等の活用によってより多くのチャンネル提供が望まれる。今後、多くの放送事業者が4K・8K/60P 放送を行うためには、本技術検討したように映像符号化方式HEVC の更なる高圧縮化による、衛星放送の伝送帯域のより効率的な利用が必要となることから、総合的に見て、有益であったと判断できる。 ・成果目標は、ほぼ達成されたが、それに伴う課題も明らかにした。 ・1年間という限られた実施期間において映像符号化方式のパラメータ最適化に向けて、各種検討を行ったことは、評価できる。 	3.9